



なぎがまCSだより

第 9 号

発行責任者 西村 厚志

なぎがまコミュニティスクールのこれから

下諏訪南小学校校長 河西 敏夫

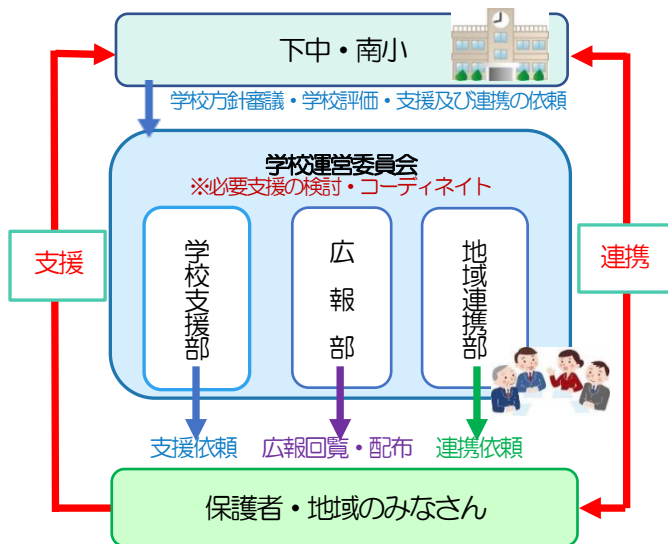
文部科学省の「地域とともにある学校」というかけ声のもと、全国の学校が、コミュニティスクール（以下CSと記述）を立ち上げています。下諏訪町もその流れの中でCSを立ち上げ、3年（正式な立ち上げからは2年）が過ぎようとしています。全国のどのCSも、それぞれの地域の特色を生かした活動を展開していますが、下諏訪町のCSはその中でも異彩を放っています。下諏訪町CSが、他地域と大きく違う点は、CSの中に「地域連携部」があり、地域の活動に小中学生が参加することを通し、地域にある教育力を活用して、地域を担う若者を育てようとしているところです。これは、「このままでは、地域から若者がいなくなってしまうのでは・・・。」という地域の危機感と、



「これからの学校教育には、地域の中で育つ子どもが必要。」という学校の必要感があって生まれたものです。

この地域と学校の互惠関係（WinWinの関係）によって生まれた地域連携は、「祭などの地域行事に小中学生が参加」という第一ステージをへて「地域防災に小中学生が参加」という第二ステージへと発展しつつあります。この地域連携が、比較的スムーズに立ち上げられた背景には、活発な公民館分館活動があり、各区が、地域の文化的行事を大切に守ってきたことがあげられます。

この地域のよさを生かし、さらになぎがまコミュニティスクールの地域連携活動がさかんになることを切に願っています。



子供を見守って13年の歩み

子供を見守る会 会長 嶋田 十三男

『**地域の子供は地域で守る**』という理念の下、下諏訪町に「子供を見守る会」を誕生させ、本格的に活動を始めたのは2005年5月でした。本格活動前の4月に新聞社からの提案で学童との対面式を行いました。現在は学校が行事計画に織り込んでくださり、毎年対面式を行っています。順調に船出したものの仕事が忙しい、高齢化で外での活動はできない、家族を見なければいけない等々の理由で退会者が続出した時期もありました。会員獲得に事務局と色々な事業所を訪問し、会社側からボランティア活動の後押しをして頂き、10数人の入会者を得たこともありました。退会者の歯止めにと、会員の健康維持やお楽しみ会を企画し、見守り会の中に“歩こう会”を作り、街歩きをしたり、町の観光名所の勉強をしたり、歩いた後は一杯含みの昼食会で「脳トレ」をしたところ好評でした。また会員相互の情報の共有に毎月情報通信を発行しており、今日までに121号を発行しました。



南小での対面式(4月)

緑色の上着の方々が「子供を見守る会」の皆さん

このように13年も続いてきているのは会員みんなが知恵を出し合い、寸暇を惜しんで活動してきたからだと思います。またこの活動を長く支えてくださっているシルバー人材センターや下諏訪町教育委員会のお陰と感謝しています。これからも地域の皆様からの叱咤激励をお願いします。

「子供を見守る会」では一緒に活動して下さる方を随時募集しております。

【問い合わせ先】下諏訪町シルバー人材センター ☎ 28-0890



『ジュニアバスケットとの出会い』



下諏訪体協ジュニアバスケットボール教室
コーチ 清水 晃

1997年、「下諏訪町をバスケットボールの町にしよう!」という掛け声のもと、体協バスケット部の仲間4人で始めたジュニアバスケのコーチ。下諏訪中学校、社中学校の男女4チームに担当を決め、毎週木曜夜間と土、日、祝日に練習の機会をつくり、最初の頃は朝練も指導していました。間もなく下諏訪大会を開催したり、県内各地区上位チームを招待するウインターカップ通崎杯を主催してきました。また年2回県外への合宿にも行き、バスケットボールの技術向上や礼儀を学んできました。また指導者自身も審判や、日本バスケットボール協会公認コーチの資格取得など勉強もしてきました。



気がつけば20年の歳月が経ちましたが、思い返せば毎年下諏訪の二つの中学校の男女計4チームの内、1チームは毎回諏訪でベスト4に入るレベルになっていました。選手は勝つ喜びと負けたときの悔しさは一生忘れないことと思います。たぶん指導者もその感動があったからこそここまで続けてこられたのではないかと思います。現在私は仕事が佳境に入っており、練習にあまり顔出せていませんが、嬉しい事に下中男子バスケ部出身で、県大会出場した時の教え子がいま一緒に指導してくれています。また顧問の先生も熱く気合いが入っています。微力ながらジュニアバスケを支えていくことができればと思っています。



『下諏訪町ジュニアバスケットボール教室社会体育に思う』



下諏訪体協ジュニアバスケットボール教室
コーチ 常盤 昌弘

下諏訪町ジュニアバスケットボール教室社会体育を立ち上げてはやくも20年近く過ぎました。当時部活動しかない町内中学校は地区大会等において百点ゲームで大敗しているのを目の当たりにして、体協部員でもあり町内中学の卒業生でもある仲間と大勢の皆様と協力して頂き中学生に部活動のない休日と週2回の練習の機会や対外試合により、“強くて地区大会でも戦えるチームになってほしい”との願いを込めて、社会体育ジュニアバスケットボール教室を立ち上げました。



もう一つの大きな目的はバスケットボール人口の底辺拡大と、生涯スポーツバスケットボールというような思いもあります。最近ではミニ、ジュニアバスケットボール教室の卒業生が後輩の指導をしてくれています。私達の目標が一つずつではありますが形になって、バスケットボールを愛する人が確実に増えています。“バスケットボールの町・下諏訪”を目指して出来る限りバスケットボールの楽しさを伝えて行きたいと思っています。体育協会バスケットボール部は木曜日、土曜日に練習していますので、共に楽しみましょう。

編集後記

平成29年度のなさがまコミュニティスクールの活動を「なさがまCSだより」として3回にわたり発信させていただきました。近い将来、下諏訪町で活躍してくれる子供達のために学校・地域・家庭で共に手を取り合いながら来年度も積極的に活動をしていきたいと思っておりますので、何卒ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なさがまコミュニティスクール 広報部一同